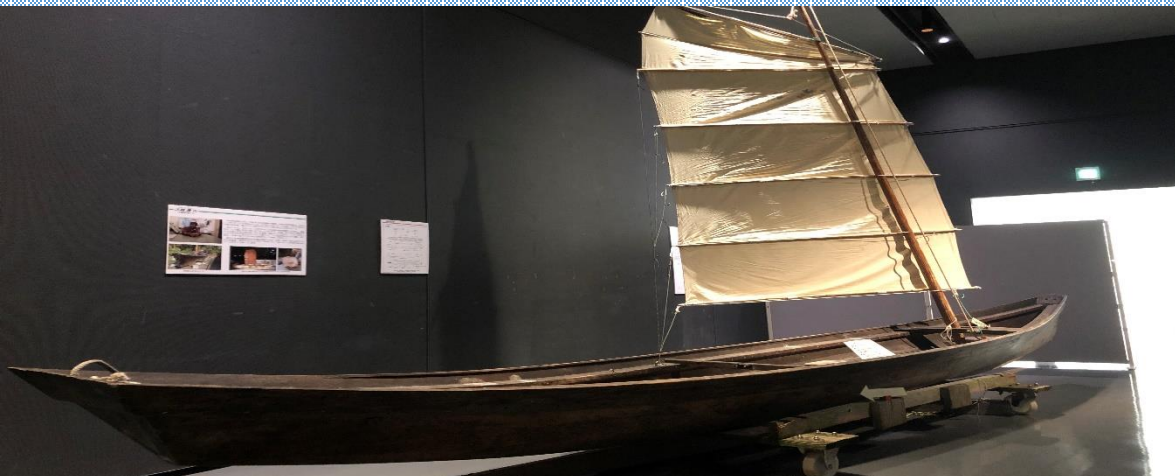


# 海洋技術科実習風景 in 県立博物館 2021.05.20

3学年船長コースによる県立博物館・美術館見学。  
 サバニや作業道具の改良・進化、歴史及び伝統の基礎知識を学び、6月11日から始まる乗船実習に向け  
 関心を高めました。質疑も踏まえながら学芸員の方に案内してもらいました。



おもしろきよし  
**大城 清氏**  
(1950年～)



糸満市糸満生まれ、大城 昇氏とは親戚の間柄。糸満中学校卒業後、父のちとでサバニづくりを始めました。父が早くに亡くなったため、大城 昇氏の父や他の技術者、漁人たちに教わりながら一人前の船大工となりました。

氏によると、そのころ（1970年代）の糸満は戦後復興も一段落し、漁業もかつての勢いを取り戻しつつあったそうです。新造、中古を問わず船を注文する漁人が後を絶たず、氏も手漕ぎ・帆装のサバニから、エンジンをせたサバニやFRP製のプラスチック船へと、つくる船を変えながら造船一筋に歩み、糸満の船づくりの変化を身をもって体験してきました。

現在も糸満漁業協同組合所属の漁船の保守・点検・修理に携わるとともに、若き後継者・高良和昭氏とともに「糸満八千」「本八千」と呼ばれる伝統のサバニをつくり続けています。



宮城護乃氏所有のサバニ





海洋文化館に展示されている大城清氏作の「本八千」とその製作風景